



## 横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 512 (2020. 7. 17)

<今週のトピックス>

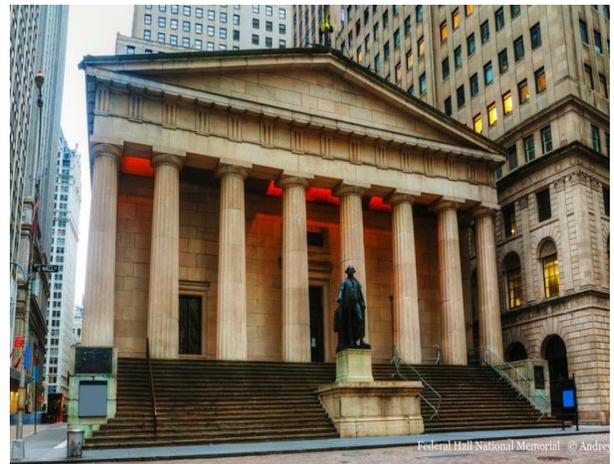
### エンパイアステートビルから花火

アメリカの最初の首都をご存じでしょうか。

歴史を紐解くと、合衆国憲法が制定されたのが、1789年。実は、当初1年間は、ニューヨークが首都でした。

その翌年（1790年）から10年間はフィラデルフィア。1800年に、現在のワシントンD.C.へと変遷していきます。

ニューヨークのフェデラルホールの前には、合衆国憲法が制定されたときの、初代大統領ジョージ・ワシントンの銅像が設置されています。



アメリカでは、毎年7月4日の独立記念日に、各州・各地で盛大なイベントが開催されます。その中でも、最も盛大で有名なのが、ニューヨークシティの「メイシーズ独立記念花火大会（Macy's 4<sup>th</sup> of July Fireworks）」です。

メイシーズの花火大会は、1976年にアメリカの独立200周年を記念して、初めて開催されました。それ以来、ニューヨークの伝統的なイベントになっており、今年は、実に244回目の開催となりました。昨年は、25分にわたり、計7万発が打ち上げられました（単純計算では、1秒間に46発）。



今年は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、例年と異なる対応が取られました。開催場所が、事前に告知されることなく、市内数か所に分けられ、5日間にわたり、各5分間の打ち上げとなりました。

打ち上げ場所は、イーストリバー、ハドソンリバー、自由の女神（スタテンアイランド）、コニーアイランド、タイムズスクエア、そしてエンパイアステートビルディング。

最終日（独立記念日当日）のエンパイアステートビルディングからの打ち上げの光景は、NBC放送により、アメリカ全土で、生中継されました。

アメリカ国歌「ザ・スタースプラングルド・バナー（星条旗）」や「アメリカ・ザ・ビューティフル」そして「ニューヨーク、ニューヨーク」などの代表的な音楽をBGMに、NYの超高層ビルであるエンパイアステートビルディングから打ち上げられる花火は、2020年だけの特別なシーンであり、新型コロナで疲れ切ったニューヨークやアメリカの多くの人たちに勇気と希望を与えたことでしょう。



さて、独立記念日のアメリカ人の定番の過ごし方といえば、昼間はプールや海で泳ぎ、スイカを食べる。午後は、家族でBBQをしながら、花火を鑑賞したり、家で花火遊びをします。

アメリカは、原則、花火は禁止されています。ニューヨーク州、ニュージャージー州、デラウェア州、マサチューセッツ州の4州は全面禁止されており、4州以外でも条件付きで承認されています。

独立記念日には、各州・各都市・各地域で、大小の規模は問わず、そこら中で、花火が打ち上げられます。普段は花火が観れない、花火ができないアメリカ人にとっては、この日だけは、思いっきり花火が楽しめる日にもなっています。

（出所：Macy's, New York Post, NBC）

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。